**第32回肝血流動態・機能イメージ研究会　【抄録提出用紙サンプル】**

＊**本文1000字以内**とします。（氏名や所属、演題名はカウントしません）

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 記入欄 |
| 演者所属・氏名（所属は５つまで） | 金沢大学放射線科　小林聡、小坂一斗、戸島史仁、米田憲秀金沢大学消化器内科　XXXX、AAAA,BBBB金沢大学肝胆膵移植外科　XXXX、AAAA、BBBBXXXX医科大学放射線科　AAAA、BBBBXXXX医科大学消化器内科　AAAA、BBBB,CCCC |
| 演題名 | 呼吸同期下Gd-EOB-DTPA造影MRI撮像における呼吸動態の検討 |
| 本文（1000字以内） | 【目的】多相造影MRI撮像時の呼吸停止状態を呼吸同期ベローズの波形でモニタした検討ではTSM例では動脈相においてベローズ波形に変化が起こっていることが報告されている。今回、呼吸同期下で多相造影MRI撮像を行い、ベローズの波形を観察することで呼吸動態に変化が生じているのか否かを検討した。また造影検査中に実際に患者が呼吸困難感を感じているか否かを調査した。【方法】肝臓疾患疑いで多相造影EOB-MRI（0.1mL/kg・rate 1mL/sec）を施行した25例を対象とした。使用機種は1.5TeslaMRI(Optima360Advance:GEHC)。呼吸同期下にて３D-T1WI横断像にて多相造影MRI撮像を行った。呼吸同期はベローズにて行い、造影前から門脈相撮像までのベローズ波形の変化を動画にて撮像した。造影剤注入後、ベローズの波形に直前の3波形の1/3以上の振幅の変化が見られた場合を波形変化ありとし、造影剤注入開始から波形変化開始までの時間（変化開始時間, 秒）、造影剤注入開始から連続した3波形の波形変化が1/3未満の振幅に戻るまでの時間（変化終了時間, 秒）、その間の経過時間を持続時間（秒）とし検討を行った。造影剤注入後の患者の主観的呼吸困難感の有無については、造影検査前に呼吸困難感に関する十分な説明を行った上で、検査中に呼吸困難を感じたタイミングで患者に呼び出しのブザーを鳴らしてもらうことにより調査した。【結果】25例中23例においてベローズ波形の変化が見られた。変化開始時間は平均24.3秒、変化終了時間は平均51.6秒、持続時間は27.3秒であった。ベローズ波形の変化の有無にかかわらず、患者の主観的呼吸困難は１例も認めなかった。【結語】EOB注入後の呼吸状態の変動を呼吸同期ベローズ波形でモニタしたところ動脈相撮像のタイミングに一致する注入後24～52秒に文献的に知られているTSM発生頻度よりも遥かに高頻度でベローズ波形の変化が見られた。このことからEOB注入による呼吸変動は高頻度に生じるが通常の呼吸停止による動脈相撮像で画像不良を呈する程度の呼吸変動をきたす例は少ないと考えられる。また、呼吸変動の出現と患者の呼吸困難感の有無とは直接の関連は少ないものと考えられた。 |